

課題を解決するための新たな取り組み

追加・強化する施策の内容

場の提供

訪れることのできる海辺を増やす

追加 ■ 魅力ある海辺空間の創出

アクセスが良好な水際線において、魅力ある海辺空間を創出するための整備を進めます。



北九州スタジアム (イメージ)

機会の提供

訪れるきっかけをつくる

強化 ■ 海辺にある産業資源の活用

産業遺産の活用や海沿いの工場群の夜景観賞ツアーなどの産業観光を推進していきます。



官営八幡製鐵所 日本事務所 眺望スペース

環境を守る

環境と共生する海辺をめざす

強化 ■ 利用者の保全意識の向上

優れた取り組みを表彰するなど、市民の活動意欲の向上を促していきます。



市民団体による漂着ゴミの清掃

強化 ■ 地域との協働による海辺の保全

担い手となる学生や企業などが協働した活動が可能となる仕組みづくりを検討します。

情報の提供

もっと海を知ってもらう

強化 ■ 海辺の見どころ情報の発信

あらゆる世代に対し、時代にあったツールを活用して、効果的に海辺の情報を発信していきます。

強化 ■ 海辺をとりまく多様な活動の発信

民間事業者や団体のHP、メールマガジンなどの多様なツールから、海辺の様々な魅力を伝えていきます。

強化 ■ 市民活動のネットワーク化

団体が抱えている課題を話し合える交流の場の設置を図り、活動の発展につながる仕組みづくりを検討します。

追加 ■ クルーズ船利用者等の海辺観光の推進

クルーズ船による観光客に対して魅力的な周遊ルートの提案や情報の提供などを行います。



海外からのクルーズ船の来訪

新・海辺のマスタープラン ～魅力ある海辺づくり計画～

中間見直し／概要

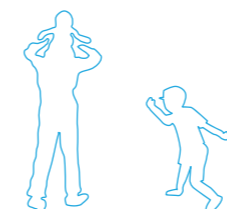
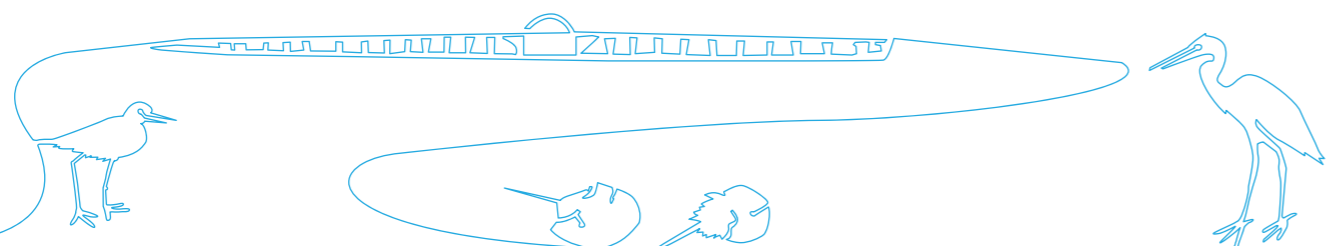
新・海辺のマスタープラン ～魅力ある海辺づくり計画～

中間見直し／概要

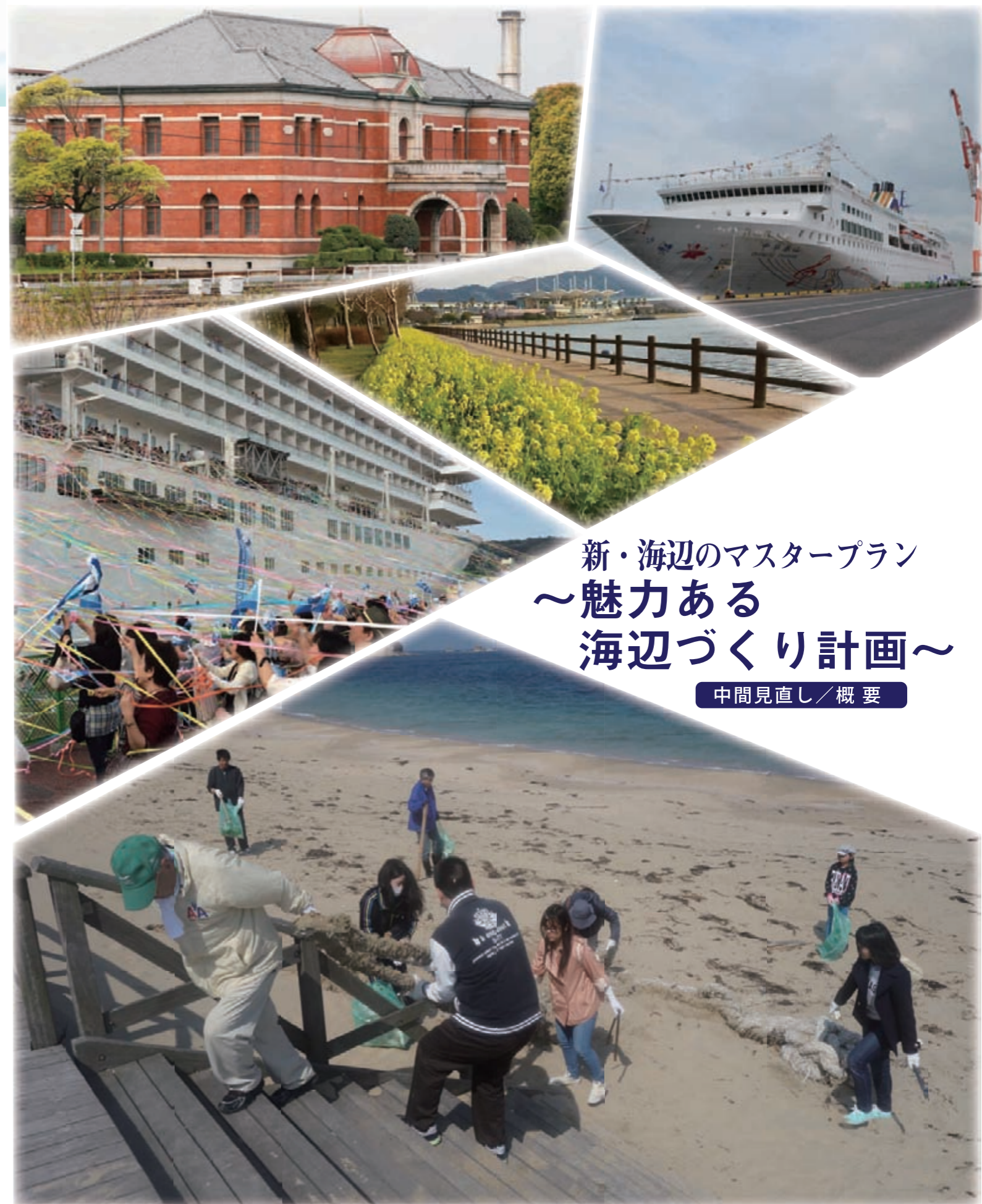
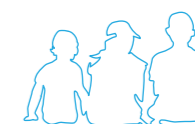
平成 28 年 11 月

北九州市 港湾空港局 整備保全部 計画課
〒801-8555 北九州市門司区西海岸一丁目 2 番 7 号
TEL 093-321-5988 FAX 093-321-5915

北九州市印刷物登録番号 第 1616011B 号
この印刷物は、リサイクル適正 A に該当しています。



北九州市

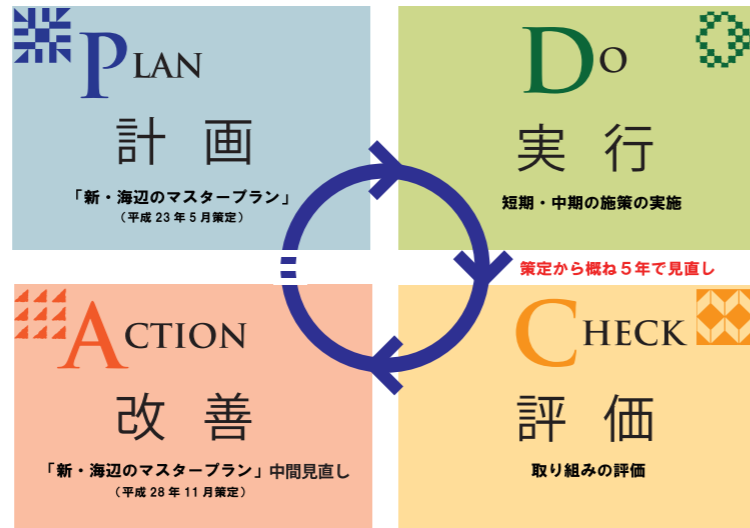


新・海辺のマスタープランの中間見直しについて

北九州市では、海辺が多くの人に利用され、親しまれるよう、魅力ある海辺づくりの方針となる「新・海辺のマスタープラン」を平成23年5月に策定しました。

このマスタープランでは、2020年(平成32年)を目標年次とし、目標とする「海辺の将来像」や「取り組みの方針」に基づき、市民やNPO、企業等のみなさまと協働し、関係部局が連携を図りながら、様々な施策を実施していくこととしています。

マスタープランは、策定から5年が経過し、市民意識や社会経済環境の変化など、海辺に対するニーズも変化していることから、目標年次の中間年にあたる平成28年度に、これまでの取り組みへの評価を実施し、その結果を踏まえて、計画の見直しを行いました。



PLAN 計画

新・海辺のマスタープラン(当初計画)の概要

- 策定年月 平成23年5月
- 計画期間 平成23年度～平成32年度(2020年度)
- 計画の対象 箇所: 市内全域の水際線と近接する海辺および陸域の一帯
対象者: 市民だけでなく、広く国内外から訪れる人も含める

目指すべき海辺の将来像

- 海辺の将来像 本市は非常に長い水際線を持ち、多くの可能性を有しています。海辺は人々の憩いの場であると同時に経済活動の場でもあり、市民生活を支える役割も担っています。それを踏まえ、産業機能との調和を図りながら、市内外から多くの人々が何度も訪れ、それぞれの目的により楽しむことができる、魅力とにぎわいのある海辺を目指します。

- 海辺づくりのコンセプト **～海辺を舞台に 憩い・学び・遊ぶ!～**
魅力ある海辺をめざして

海辺づくりの基本方針

将来像実現に向けた目標

利用できる海辺を増やす 親しまれる度合いを高める

海辺づくりの基本方針

<p>場の提供 ～訪れることのできる海辺を増やす～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 水際線整備の推進 2 交通便利性の確保 3 市民参加による海辺づくり 	<p>機会の提供 ～訪れるきっかけをつくる～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 海辺を訪れ遊ぶきっかけづくり 2 海や港を学ぶしくみづくり 3 海辺の資源を活用したにぎわいづくり
<p>情報の提供 ～もっと海を知ってもらおう～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 海辺の魅力の情報発信 2 市民活動における情報の共有化 3 安全な利用のための情報提供 	<p>環境を守る ～環境と共生する海辺をめざす～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 環境に配慮した海辺の整備 2 海辺の環境学習の推進 3 海岸環境の維持・保全

DO 実行

これまでの取り組み状況

場の提供
訪れることのできる海辺を増やす
新たな緑地等の整備や既存施設の改良を行いました。
「海辺利用のルールブック」を作成し、啓発活動を実施しました。



津村島緑地の整備

機会の提供
訪れるきっかけをつくる
海辺の産業資産である旧大連航路上屋の保存・改修を行いました。
魅力的なイベントや港湾施設の見学会等を実施しました。



旧大連航路上屋を交流施設に改修

情報の提供
もっと海を知ってもらおう
海辺の見どころを紹介した情報誌「うみたび」の発行や北九州港HPに「海ナビ」を掲載し、海辺に関する情報発信を行いました。
海辺の活動を紹介するパネル展や海の安全教室の開催、海抜表示板等の設置を行いました。



「うみたび」の発行

環境を守る
環境と共生する海辺をめざす
地域との協働による海辺の清掃活動を実施しました。
小学生を対象とし、ムラサキイガイを活用した洞海湾の環境修復体験教室を実施しました。



市民団体による海岸清掃

CHECK 評価

取り組みへの評価

目標の達成状況

(1)「利用できる海辺を増やす」についての達成状況

- ◆ 市民の利用を目的として整備された水際線の延長が増加
水際線の整備延長



今後は、砂津緑地や響灘東地区南緑地などを整備し、平成32年度までに市民が利用できる水際線の延長を24.5kmとします。

- ◆ 海辺を訪れる市民の割合が増加

市民が過去1年間に北九州市の海辺へ出かけた割合



平成27年度で最も多い訪問地は、「門司港・和布刈」(65.0%)で、次いで、「北九州空港」(47.6%)、「若戸大橋周辺」(46.9%)などとなり、海辺への訪問頻度の増加や訪れる場所の広がりが見られました。

(2)「親しまれる度合いを高める」についての達成状況

- ◆ 北九州港 HP「海ナビ」へのアクセス数が増加
「海ナビ」へのアクセス数



北九州港 HP「海ナビ」へのアクセス数は年々増加しています。その中でも、「海で遊ぼう」「海辺を歩こう」がアクセスランキングを上げています。

- ◆ 小学生の水際線を好きな割合が増加
環境修復体験教室の開催前後での洞海湾が「好き」という意識の変化



取り組みへの市民の評価と意見

(1)海辺についての市民の満足度

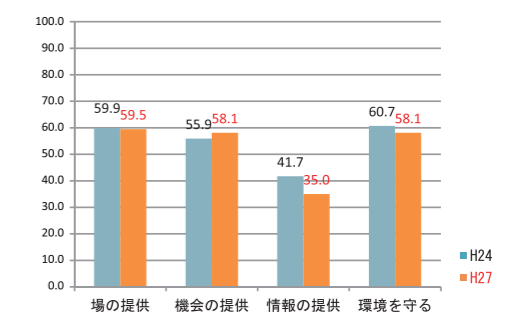
- ◆ 海辺についての市民の満足度が上昇



満足度とは、市民が、海辺や港について満足している割合のことで、「非常に満足」と「やや満足」と答えた人の合計の割合です。マスタープランでは、平成32年度に満足度75%を達成することを目指しています。

(2)海辺づくりの基本方針ごとの市民の評価

- ◆ 「情報の提供」は市民の満足度が低い



マスタープランの推進に向けた今後の課題

成果は着実に上がっていますが、市民意識や社会経済環境の変化の観点から、今後の課題を整理しました。

- 【課題1】海辺の魅力や海辺で開催される様々なイベントに関する情報発信不足
- 【課題2】海辺の市民活動の醸成不足
- 【課題3】産業観光やインバウンドへの対応
- 【課題4】臨海部における低未利用地の有効活用

